



# 関西経済レポート (9月号)

-  7月の鉱工業生産指数は前月比+0.2%と2カ月連続の上昇も、特殊要因による影響が大きい。8月の実質輸出は5カ月ぶりの前月比プラスとなっており、来月は増産が予測される。
-  8月の貿易動向は輸出は30カ月連続で前年比増加、輸入は6カ月ぶりの増加。結果、貿易収支は6カ月連続の黒字。
-  8月の消費者態度指数は2カ月ぶりに改善した一方、景気ウォッチャー現状判断DIは2カ月連続で悪化した。中国経済の減速による影響から、先行き見通しは大幅に低下している。
-  8月の大型小売店の販売額は、5カ月連続の前年比増加となり緩やかな回復。
-  8月新設住宅着工戸数は前年比-2.1%と4カ月ぶりの減少。貸家の減少が響いた。
-  8月の有効求人倍率と新規求人倍率はともに上昇。失業率は前月から上昇し、5カ月連続の悪化となったが、新規求職の動きを反映した労働力人口の増加がみられ、雇用情勢は堅調が続いている。
-  8月の公共工事請負金額は前年比-11.6%と2カ月連続の大幅マイナス。7月の建設工事は同+5.2%と5カ月連続のプラス。足下、公共工事はプラスの伸びを維持しているが、公共工事請負金額は減少している。先行き公共工事は減少トレンドを避けられない。
-  中国9月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は前月から幾分上昇したが、依然として50を下回る水準が続いている。中国経済への下方圧力は今後も続くと思われる。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。  
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所  
“Kansai Economic Insight Monthly”と連携しています。



## ～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向	7

# ～生産～

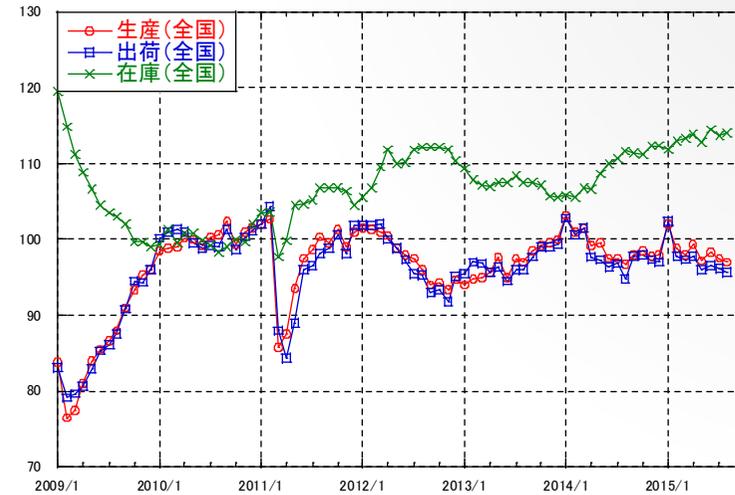
鉱工業指数の推移（近畿・2015年7月まで）、2010年=100



(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

- 関西における7月の鉱工業指数(確報値：季節調整済)は、生産は102.8で前月比+0.2%、出荷は100.5で同+0.5%といずれも2カ月連続の上昇。在庫は119.0で同+1.2%と4カ月連続の上昇となった。
- 業種別にみると、金属製品(同+26.6%,3カ月ぶり)、化学(除.医薬品)(同+5.8%,4カ月連続)、電子部品・デバイス(同+4.2%,3カ月ぶり)等が増産となった。一方、はん用・生産用・業務用機械(同-3.7%,2カ月ぶり)、その他(同-5.4%,2カ月ぶり)、電気機械(同-2.4%,2カ月連続)等は減産となった。
- 足下、生産は小幅増加となったが、これは橋りょう製品等の金属製品の大幅増といった特殊要因によるものが多い。8月の実質輸出(5カ月ぶりの前月比プラス)を見ると、同月の生産は増加が予測される。

鉱工業指数の推移（全国・2015年8月まで）、2010年=100

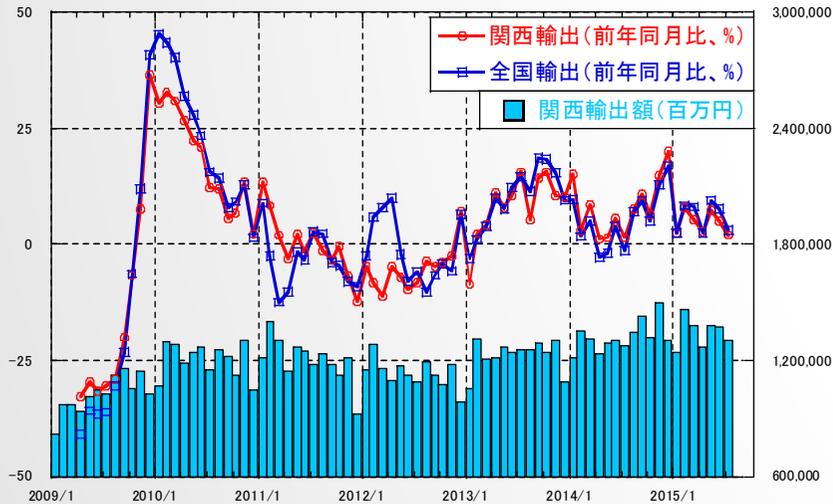


(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

- 全国における8月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は97.0となり前月比-0.5%、出荷は95.7で同-0.5%、といずれも2カ月連続の下落。在庫は114.1で同+0.4%と2カ月ぶりの上昇。
- 業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同-3.2%,2カ月連続)、電気機械(同-3.2%,4カ月連続)、輸送機械(同-0.7%,2カ月連続)等が減産となった。中国経済減速の影響が大きい。一方、プラスチック製品(同+2.3%,2カ月ぶり)、石油・石炭製品(同+3.7%,2カ月連続)、化学(除.医薬品)(同+0.3%,3カ月連続)等は増産となった。
- 製造工業生産予測調査では9月は前月比+0.1%と小幅増産、10月は同+4.4%の増産となっている。なお、予測が実現した場合、7-9月期の生産は前期比-1.1%と2期連続のマイナスとなる。

# ～輸出入～

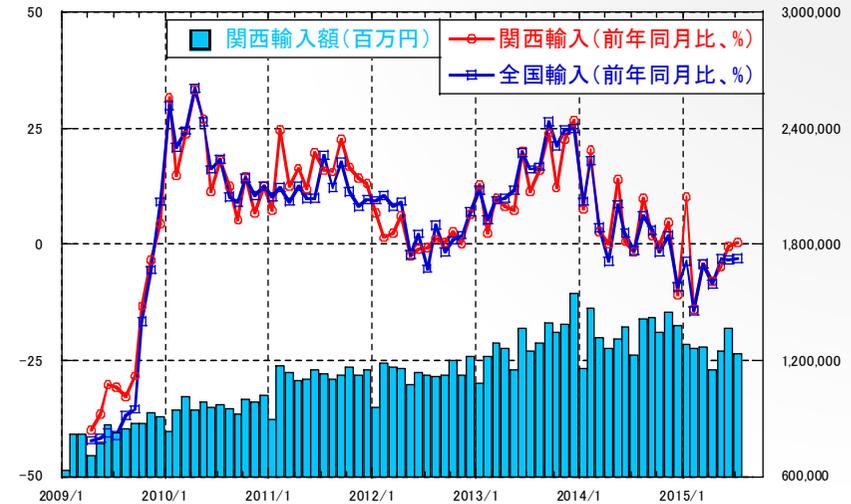
輸出動向 (右：輸出額、左：前年同月比) (2015年8月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

- 関西8月の輸出額(速報値)は1兆2,994億円。前年同月比+2.0%と30カ月連続の増加。
- 財別に見れば、輸出増加に主に貢献したのは、通信機(単月過去最高額)、自動車であった。一方、有機化合物、原動機は減少となった。
- 全国8月の輸出額(確報値)は5兆8,818億円となり、前年同月比+3.1%と12カ月連続の増加。財別に見れば、先月に引き続き、自動車、船舶、半導体等電子部品等の輸出が増加した。
- なお、足下、為替レート(税関長公示レートベース)は124.16円と前年同月比21.5%の円安であった。

輸入動向 (右：輸入額、左：前年同月比) (2015年8月まで)

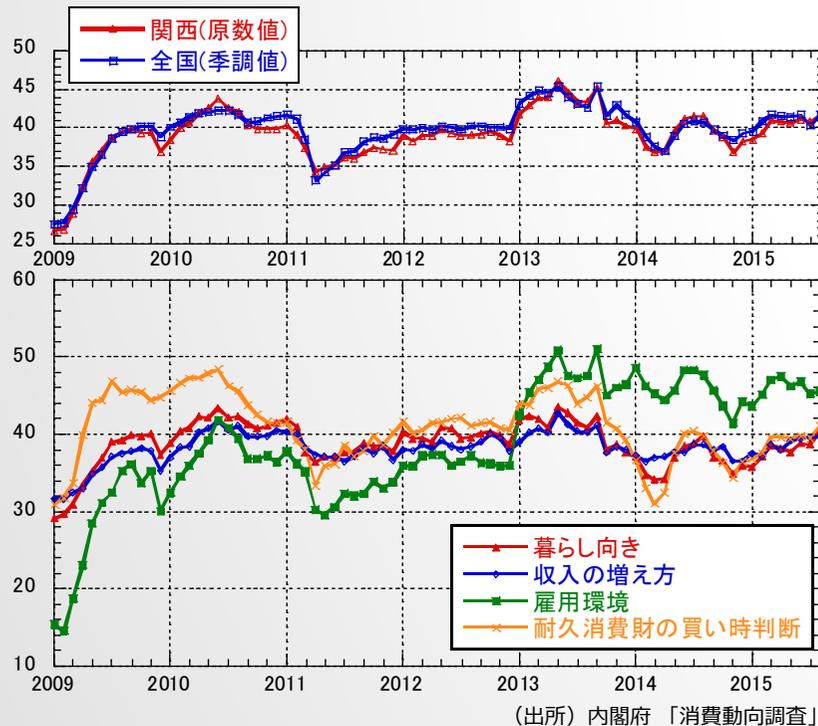


(出所) 財務省「貿易統計」

- 関西8月の輸入額(速報値)は1兆2,332億円、伸びは前年同月比+0.3%と6カ月ぶりの増加も、伸びは小幅にとどまった。
- 財別に見れば、通信機(単月過去最高額)、衣類及び同付属品等が増加した。一方、原油及び粗油、天然ガス及び製造ガスは減少。ちなみに、原油及び粗油は、価格の下落もあり同-26.6%のマイナスと大幅減が続いている。
- 全国8月の輸入額(速報値)は6兆4,512億円、前年同月比-3.1%と8カ月連続の減少。財別に見れば、原粗油、液化天然ガス、石油製品等の輸入が減少した。
- 結果、8月関西の貿易収支は+662億円と6カ月連続の黒字。黒字幅は前年同月から+52.0%増加。全国の貿易収支(確速値)は-5,694億円と5カ月連続の赤字となったものの、赤字幅は前年同月から-40.3%縮小した。

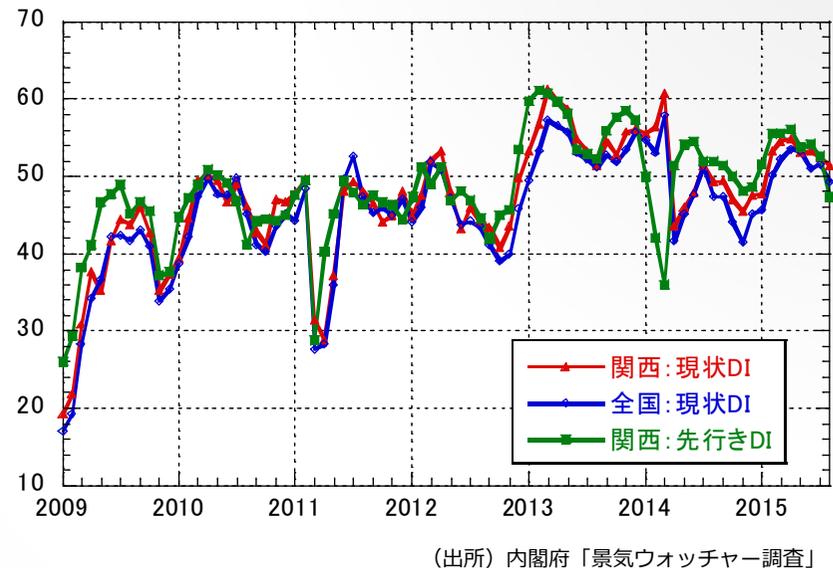
# ～消費者センチメント～

消費者態度指数(2015年8月まで)



- 関西の8月の消費者態度指数(原数値)は前月比+0.9ポイントの41.7と、2カ月ぶりに改善した。全国(季節調整値)でも同+1.4ポイントの41.7とこちらも2カ月ぶりの改善。ガソリン価格の低下などが消費者心理を支えた。ただし、8月調査の調査基準日は8月15日であり、8月下旬からの株価下落の影響は含まれていないことに注意を要する。
- 関西で同指数の構成項目をみると、8月は4つの意識指標のうち全てが前月から改善した。「暮らし向き」が同+1.7ポイント上昇、「耐久消費財の買い時判断」は同+1.6ポイント上昇、「雇用環境」は同+0.3ポイント上昇し、いずれも2カ月ぶりの改善。「収入の増え方」は同+0.1ポイントと4カ月連続で上昇した。

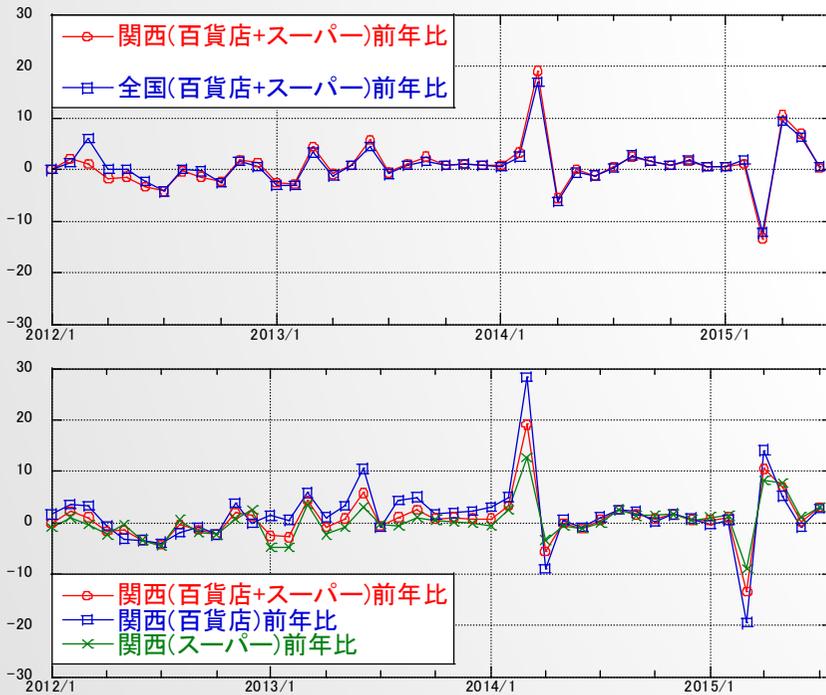
景気ウォッチャー調査(2015年8月まで)



- 関西の8月の現状判断DIは前月比-1.0ポイント低下の51.4となり、2カ月連続の悪化。益明け以降の消費の減少や株価の下落によるマインドの悪化などが寄与したとみられる。なお、調査時点は8月の25日から月末にかけてである。全国は同-2.3ポイント低下し49.3となり、こちらも2カ月ぶりの悪化。
- 先行き判断DIは、関西では47.3と前月比-5.3ポイントと大幅に低下した。低下は2カ月連続。中国経済の減速を受けて、製造業を中心に輸出面で大きな影響が懸念されている。加えて、百貨店やホテルからは、株価下落によるインバウンド消費の鈍化を心配する声が上がっている。これらの要因が、先行き見通しの大幅な悪化につながったとみられる。

# ～個人消費・住宅～

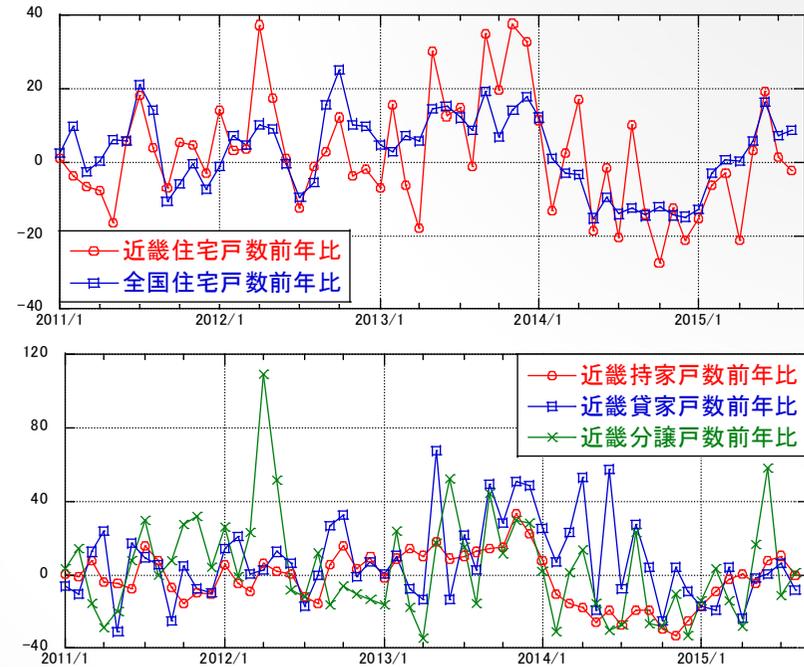
大型小売店販売額（前年同月比：％、2015年8月まで）



(注) 福井県を含む。  
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

- 関西8月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+3.7%増加。5カ月連続のプラス。
- 百貨店は同+3.9%増加し、2カ月連続のプラス。伸びは前月から加速した。
- スーパーは同+3.7%と5カ月連続のプラス。
- 全国の大型小売店販売額(8月、全店ベース)は同+2.6%と5カ月連続のプラス。
- 関西、全国共に消費は好調であるが、関西の好調な消費の背景には、外国人観光客による観光需要の高まりがあると推測される。

新設住宅着工(前年同月比：％、2015年8月まで)

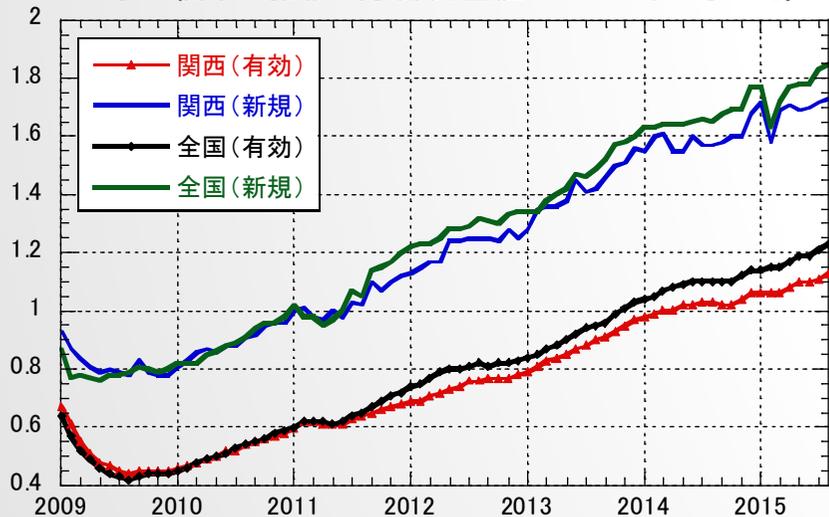


(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

- 関西8月の新設住宅着工戸数は12,490戸。前年同月比-2.1%減少し、4カ月ぶりのマイナスとなった。
- 全国は80,255戸、同+8.8%増加し6カ月連続のプラス。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は2,925戸、同+0.0%と横ばい。貸家は4,598戸、同-7.7%と3カ月ぶりのマイナス。分譲は4,883戸、同+1.8%増加し、2カ月ぶりのプラス。
- 8月の関西マンション契約率は79.5%(季節調整値、APIR推計)。好不調の目安となる70%を6カ月連続で上回っている。首都圏は76.6%(季節調整値、APIR推計)となった。
- 足下、関西の住宅着工の伸びはマイナスとなった。

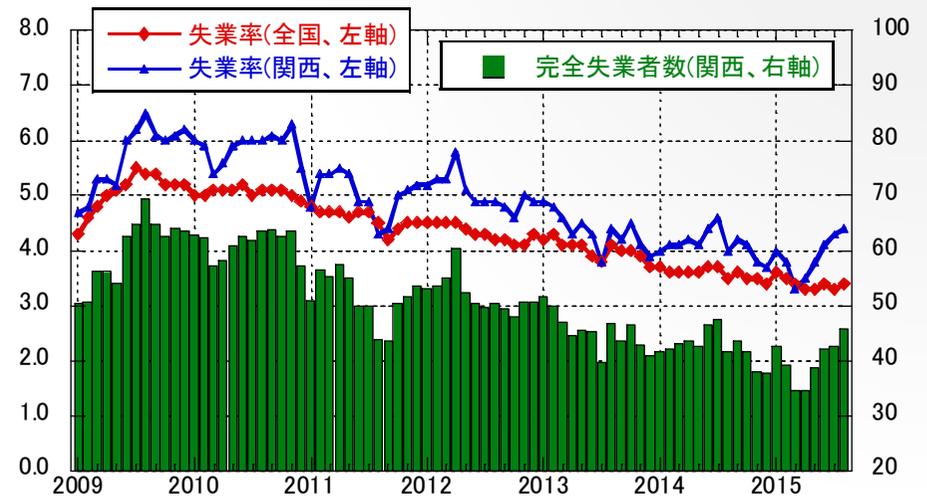
# ～雇用～

求人倍率の推移 (季節調整値、2015年8月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

完全失業率の推移 (季節調整値：%、万人、2015年8月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」

関西2府4県有効求人倍率(受理地別)(2015年8月)

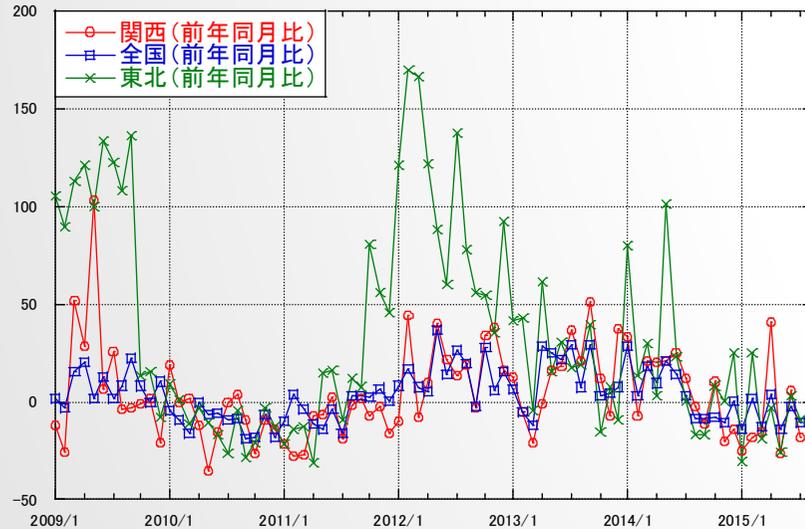
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
8月	1.23	1.13	1.06	1.18	1.22	1.00	1.06	1.05
7月	1.21	1.11	1.05	1.15	1.20	0.98	1.03	1.03

- 8月の関西の有効求人倍率は、1.13倍で前月比+0.02ポイント上昇し、2カ月連続の上昇。リーマンショック前の2007年6月に並ぶ高水準。全国は1.23倍で同+0.02ポイント上昇し、こちらも2カ月連続の上昇。1992年1月(1.25倍)以来の高水準となった。雇用情勢は堅調である。
- 府県別では、全ての府県で前月から上昇し、久方ぶりに1倍台を回復した。京都府・奈良県で前月比+0.03ポイント、大阪府・兵庫県・和歌山県は同+0.02ポイント、滋賀県では同+0.01ポイント上昇した。
- 8月の関西の新規求人倍率は、1.73倍と前月比+0.01ポイント上昇。全国は1.85倍と同+0.02ポイント上昇した。
- 大阪の産業別新規求人数は、宿泊・飲食サービス業で前年同月比+24.1%と2カ月連続の大幅プラス。また、医療・福祉、情報通信業、学術研究・専門技術サービスで増加。

- 8月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は4.4%で前月(4.3%)から0.1%ポイント上昇し、5カ月連続の悪化。労働力人口(季節調整値)が増加していることから、新規求職の動きを反映したものとみられる。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は45.7万人で前月(42.5万人)から3.2万人増加した。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.4%と前月から0.1%ポイント上昇した。完全失業者数(季節調整値)は224万人と前月比+4万人増加したが、求職理由別にみると、自発的な離職(自己都合)が増加していることから、背景には新規求職の動きがみられる。
- 15～64歳の就業率(原数値、全国ベース)をみると、73.3%となり、前年同月比+0.5%ポイント上昇。昨年5月の後半から高水準が続いている。

# ～公共投資～

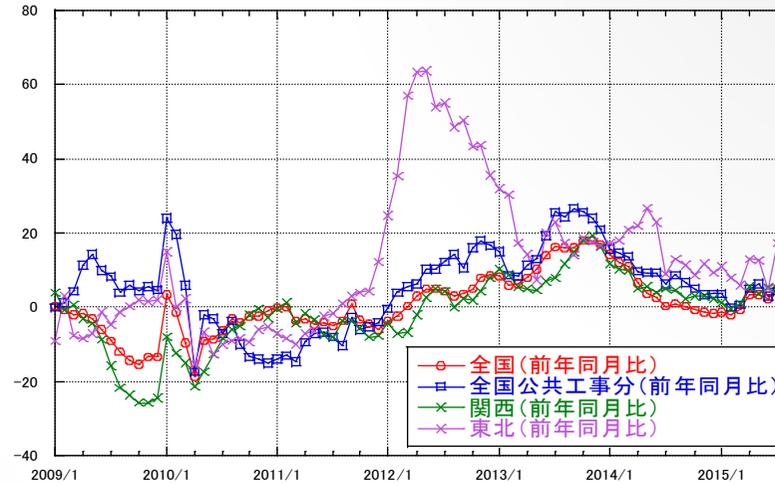
公共工事請負額(前年同月比：％、2015年8月まで)



(注) 福井県を含む。  
(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

- 関西8月の公共工事請負金額は1,032億円で前年同月比-11.6%と2カ月連続で2桁のマイナスとなった。
- 全国は1兆1,132億円で同-1.3%と4カ月連続のマイナス。
- 東北は2,134億円で同-0.7%と2カ月連続のマイナスとなった。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国共に2カ月連続で前月から減少となった(関西：同-6.1%、全国：同-6.4%)。公共工事請負金額は停滞しており、今後、本格的に減少トレンドに転じる可能性がある。

建設工事(前年同月比：％、2015年7月まで)

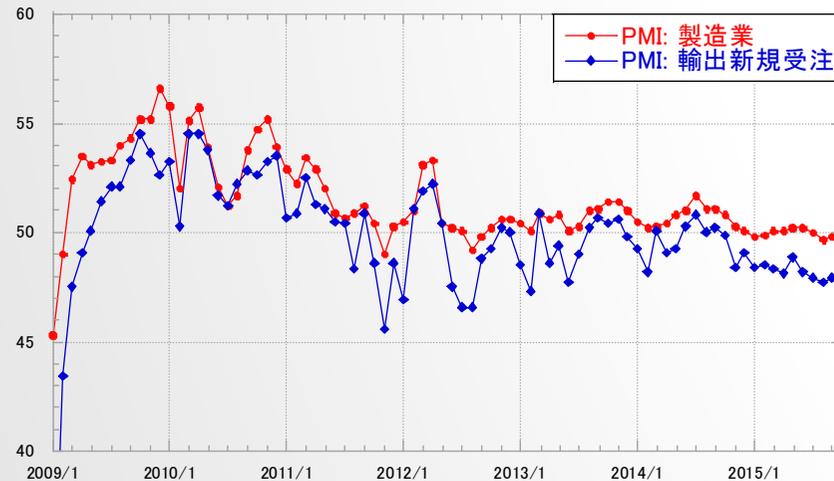


(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西7月の建設工事は5,003億円、前年同月比+5.2%と5カ月連続の増加となった。
- 東北は5,551億円、同+17.3%と48カ月連続の増加。
- 全国は3兆9,345億円となり、同+5.2%と4カ月連続の増加。
- うち、全国の公共工事は1兆5,508億円で同+4.4%と42カ月連続の増加も、伸びは16カ月連続で1桁にとどまった。
- 足下、公共工事はプラスの伸びを維持しているが、公共工事請負金額は減少している。公共工事の先行きは、減少トレンドを避けられない。

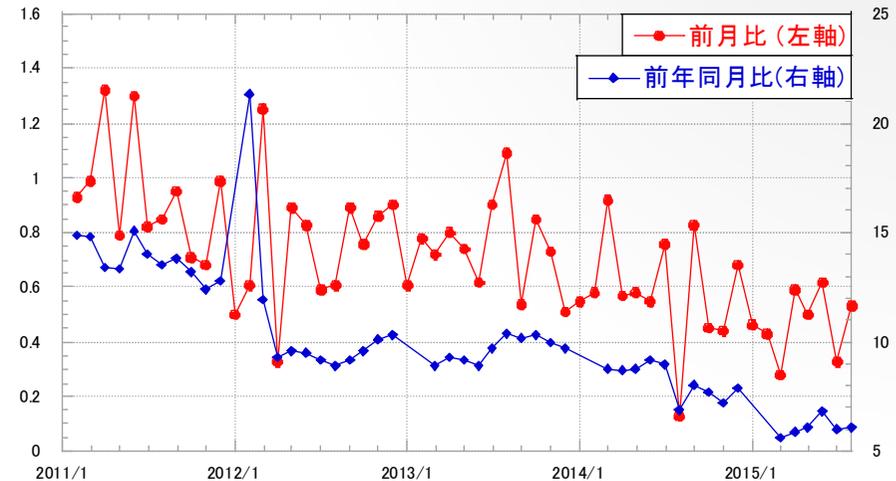
# ～中国経済動向①～

製造業購買担当者景況指数 (2015年9月まで：%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

工業生産指数(2015年8月まで：%)



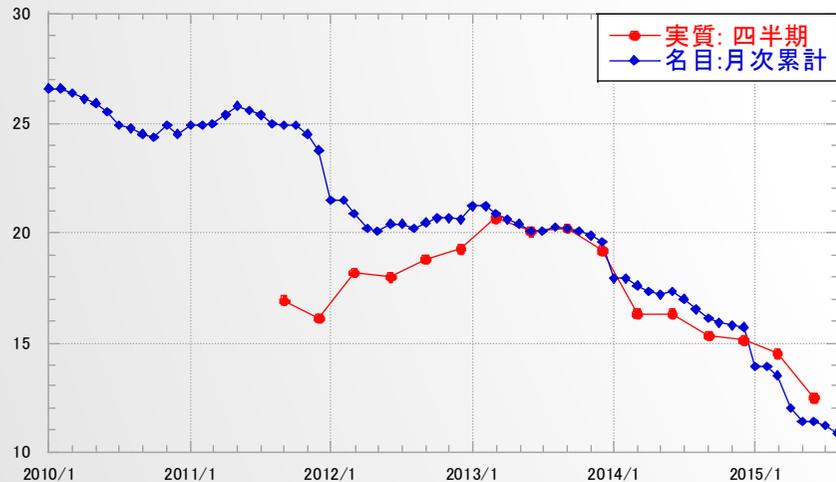
(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 9月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.8となり、前月比+0.1ポイント上昇したが、2カ月連続で50を下回った。
- うち、生産指数は同+0.6ポイント上昇し52.3となり、4カ月ぶりの上昇。新規受注指数は同+0.5ポイント上昇し50.2となり、4カ月ぶりのプラス。また、輸出新規受注指数は同+0.2ポイント上昇し47.9となったものの、12カ月連続で50を下回った。雇用指数は47.9となり、前月から横ばい。
- PMIは前月から幾分上昇したが、依然として50を下回る水準が続いている。中国経済への下方圧力は今後も続くと思われる。

- 8月の工業生産は前月比+0.53%となり、前月から+0.2%ポイント上昇した。前年同月比は+6.1%となり、伸びは前月から+0.1%ポイント上昇したが、昨年同年の伸び率(+8.22%)を下回る状況が続いている。
- 産業別に見ると、有色金属圧延加工業(同+11.7%)、パソコン・通信及びその他電子設備製造業(同+11.1%)、医薬製造業(同+10.3%)、化学原料・製品製造業(同+10.3%)、ゴム・プラスチック製品製造業(同+9.9%)等が高い伸びを示す一方で、通用設備製造業(同+3.8%)、電力・熱力生産・供給業(同+1.5%)、自動車製造業(同+0.2%)等は比較的低調な伸びにとどまった。

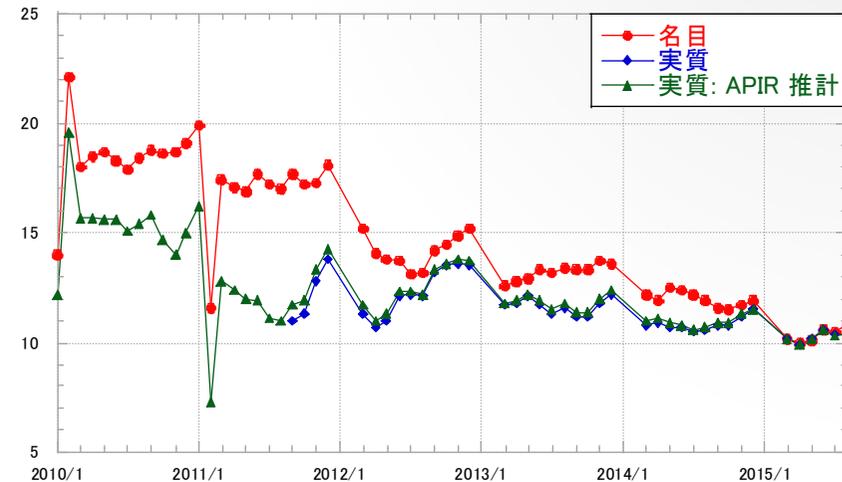
## ～中国経済動向②～

固定資産投資 (2015年8月まで：%) (累積伸び率)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

社会消費品小売総額 (2015年8月まで：%)

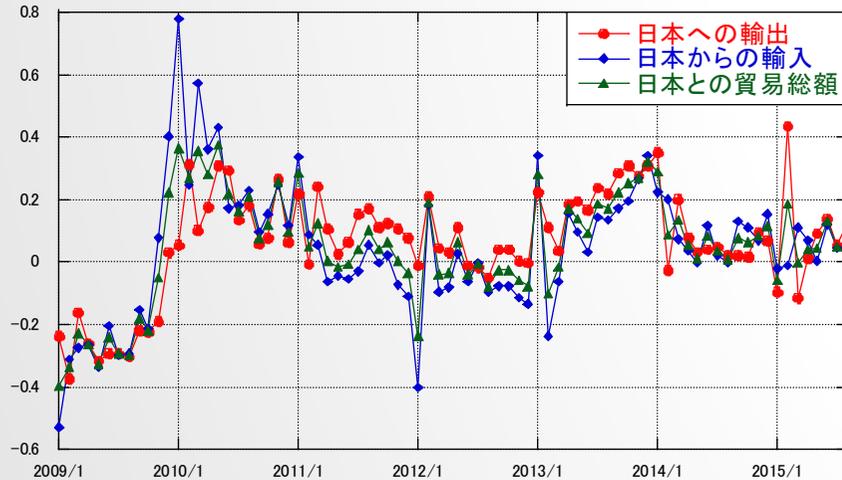


(注) APIR推計値は小売価格指数を用いて推計  
(出所) 中国税関; CEICデータベース(APIR推計)

- 1-8月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+10.9%、伸びは2カ月連続の低下となった(1-7月期:+11.2%)。2014年後半以降急激な減速が続く、2000年12月(+9.7%)以来の低水準となった。
- 産業別にみれば、第1次産業は同+28.5%(1-7月期:+28.2%)、2カ月連続で加速した。一方、第2次産業は同+8.5%(1-7月期:+9.0%)となったが、6カ月連続の減速。第3次産業も同+11.9%(1-7月期:+12.1%)となったが、2カ月連続の減速である。
- 8月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+10.8%と前月(同+10.5%)より+0.3%ポイント小幅上昇したものの、昨年通年の伸び(同+12.0%)を依然下回っている。

## ～中国経済動向③～

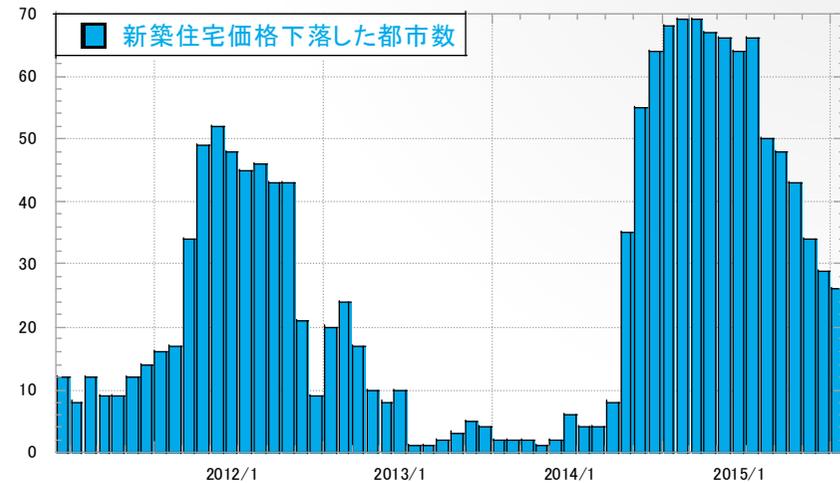
日本との貿易 (前年同月比：円ベース)(2015年8月まで：%)



(出所) 中国税関; CEICデータベース; APIR計算

- 8月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比-5.6%と2カ月連続のマイナス。輸入額は同-13.9%(速報値)と内需の低迷を反映し10カ月連続のマイナス。減少幅は前月(同-8.2%)より拡大した。
- うち、日本への輸出額は同-5.9%と6カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-14.2%と10カ月連続のマイナスとなった。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+12.6%となり、5カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同+2.7%と6カ月連続の増加だが、前月(同+4.6%)から伸びは縮小した。

新築住宅価格の主要都市集計 (2015年8月まで：都市数)



(出所) 中国労働市場情報観測センター; CEICデータベース; APIR計算

- 不動産価格(新築住宅価格)を見ると、中国主要70都市のうち、8月は26都市で下落した。前月に比べ35都市で上昇、9都市で横ばいとなった。下落した都市の数は6カ月連続の減少となった。

## ※関西経済のトレンド 評価基準について

- 生産：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- 貿易：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- センチメント：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- 消費：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 住宅：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 雇用：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- 公共工事：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。